

令和4年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人石川県音楽文化振興事業団	
施 設 名	石川県立音楽堂	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業	
内 定 額 (総 額)	21,119	(千円)
	公 演 事 業	14,224 (千円)
	人 材 養 成 事 業	6,895 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	0 (千円)

(1) 令和4年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	トップレベルの文化芸術の振興（国際的水準の芸術の提供）	① 5/26、11/30 ② 3/15	① 「パイプオルガンコンサート」 ・5月：富田一樹（オルガン） （演目）J.Sバッハの曲 他 ・11月：大木麻里（オルガン）、 上野耕平（サクソフォン） （演目）動物の謝肉祭 他 ② 「山田和樹@音楽堂 “未来へのメッセージ”」 山田和樹（指揮）、東京混声合唱団（合唱）オーケストラ・アンサンブル金沢（以下、OEK）（管弦楽）（演目）土の歌（佐藤真）他	目標値	2,080
		石川県立音楽堂コンサートホール		実績値	1,412
2	トップレベルの文化芸術の振興（異なる文化の融合・交流等による新たな文化を創造）	① 10/16 ② 2/12 ③ 3/12	① 「MANSAI CREATION BOX ～萬齋のおもちや箱～」 井上道義（指揮）野村萬齋（舞） OEK（演奏）（演目）武満徹：ワルツ、ラヴェル：ボレロ 他 ② 「和洋の響」 池辺晋一郎（監修・案内役）、松井慶太（指揮）、OEK（演奏）、金子展寛（箏）（演目）公募作品初演（箏とオーケストラによる3人の「坊」）他 ③ 「芸の鼓動」 森山開次（演出・振付・ダンス）、笠松泰洋（作曲）、藤舎呂近、藤舎呂英（囃子）、いしかわ子ども邦楽アンサンブル（演目）千手舞道成寺	目標値	2,645
		①・② 石川県立音楽堂コンサートホール ③ 石川県立音楽堂邦楽ホール		実績値	2,624
3	トップレベルの文化芸術の振興（質の高い伝統芸能の鑑賞機会の充実）	1/28	「新春 萬齋の芸能玉手箱」 野村万作、野村萬齋、市川猿之助 他 （演目）素囃子、舞踊、狂言、二人三番叟	目標値	625
		石川県立音楽堂邦楽ホール		実績値	690

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和4年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	地域文化の振興（音楽文化の担い手の育成）	①・②通年 ③中止 ④5/15 ⑤12/11 ⑥9/1～10	<p>①「ジュニアオーケストラ」 公演：音楽祭、ミニコンサート、定期演奏会 練習：月1回の合奏、月1～2回のパート練習。夏季合宿を実施 [参加者]小学4年生～高校3年生 [指導者] 鈴木織衛、OEKメンバー、地元音楽関係者</p> <p>②「子ども邦楽アンサンブル」 公演：芸の鼓動、エキコン金沢(3月) 練習：年間約40日 [参加者]小学1年生～高校3年生 [指導者]藤舎呂英、藤舎夏実、松永忠一郎、元井美智子、地元邦楽関係者 [練習内容] 囃子、箏、長唄 全員が全ての楽器を稽古</p> <p>③「カレッジコンサート」※ 新型コロナウイルス感染症の影響により中止</p> <p>④「新人登竜門コンサート」 指揮：ユベール・スダーン 演奏：オーケストラ・アンサンブル金沢 ソリスト：藤田菜月、安嶋美裕（オーディション選出奏者）（演目）モーツァルト・クラリネット協奏曲、フルート協奏曲 他</p> <p>⑤「メサイアコンサート」 指揮：柳澤寿男 合唱：北陸聖歌合唱団（約100名）オルガン：春日朋子 演奏：OEK （演目）ヘンデル：メサイア 他</p> <p>⑥「インターンシップ」 昭和音楽大学から学生1名受入れ</p>	目標値	2,493
		石川県立音楽堂		実績値	1,276※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価	
	<p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
	<p>地域の音楽文化振興の中心的役割を担う施設として、石川県立音楽堂の存在意義、また条例・計画を踏まえ、「石川の文化創造・発信拠点として地域活性化に貢献する」という社会的役割（ミッション）を掲げ、公演事業・人材養成事業それぞれに目標（ビジョン）を設定し、その達成に向けて着実に取組を推進できたと考える。</p> <p>しかしながら、（影響は徐々に緩和されたが、）新型コロナウイルス感染症の影響により、学生との活動に制約を受けたことから、「カレッジコンサート」を中止にするなど、事業に一部変更が生じたが、それ以外は、概ね当初の予定通りに事業を進めることができた。</p> <p>今後は「アフターコロナ」に軸足を移しながら、引き続き着実に事業を遂行していきたい。</p>
	<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
	<p>環境分析（※）に基づいた目標（ビジョン）設定をし、事業を実施。当事業団を取り巻く地域の環境を再確認することで、より文化的、社会的、経済的意義を踏まえた目標となり、目標達成に向けて事業を推進することができた。</p>
	<p>（※）環境分析 内部環境（施設の強み・特色） →強みを活かし、弱みを克服する 外部環境（地域の特性・ニーズ等） →機会を攻略し、脅威を回避する</p>
	<p>①【強み→活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーケストラ・アンサンブル金沢を有する。 ・特色ある3ホールを有する。 ・国内外の著名なアーティスト、地域で活躍する音楽家や団体とのネットワークを築いている。 ・石川県の代表的なターミナル駅の金沢駅に隣接しており、利便性が高く、賑わいがある。 <p>②【弱み→克服】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽団員・施設職員の平均年齢が上昇している。 ・音楽文化振興の担い手が不十分。 <p>③【機会→攻略】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藩政期以来培われてきた伝統芸能が盛んな地域性がある。・県民のクラシック音楽に対する受容が高い。 <p>④【脅威→回避】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者等のクラシック離れ（顧客の高齢化）が進んでいる。 ・少子高齢化、転出超過により、市場規模が縮小している。 <p>●上記4種（①②③④）の要因を組合せ、事業を企画・実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○①強みを活かし、③機会を攻略 → 公演事業 <ul style="list-style-type: none"> ・国際的水準のクラシック音楽の提供 ・質の高い伝統芸能の鑑賞機会の充実 ・異なる文化の融合・交流等による新たな文化の創造 ○②弱みを克服し、③機会を攻略 → 人材養成事業 <ul style="list-style-type: none"> ・将来の文化の担い手の育成 ○①強みを活かし、④脅威を回避 → 普及啓発事業※R4年度助成対象外 <ul style="list-style-type: none"> ・全ての人々の鑑賞・文化活動を行う機会の充実 ・子どもが音楽文化にふれる機会の充実

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

公演事業

洋楽・邦楽ともに高い受容がある地域の特性を踏まえ、地域の財産である多機能なホールやレジデント・オーケストラ（OEK）といった資源を活用することで、

①多種多様な芸術文化の専門性・芸術性・ホールの特性が十分に発揮される創造的な事業の展開を継続する

②質の高い（顧客満足度の高い）公演を提供する

ことを目標として以下の指標を設定。

成果指標	H29	H30	H31	R2	R3	R4	目標値
①異なる文化の専門性・芸術性が融合した創造的な公演数	3公演	3公演	2公演※	3公演	3公演	3公演	3公演以上
②入場者アンケートによる「大変満足」「満足」の合計割合	92.7%	93.1%	93.6%	91.4%	94.2%	98.2%	95.0%

①レジデント・オーケストラの起用や、各分野において著名で実績のある演者の出演、舞台機構も十分に活用するなど、内容の充実した事業の実施を継続することができた。（※H31はコロナにより1公演中止）

②令和4年度は目標値の95%を上回るとともに、過去6年間で最も満足度の割合が高く、公演内容が高く評価されたと考える。なお、令和4年度より、アンケート用紙と共にペンも配布し、公演前後にも回答を呼びかけるなどアンケート回収に力を入れた結果、従来よりも多くの入場者から意見を聴取することができた。

また、回答の集計だけでなく、分析も併せて行い、今後の公演に活かすように努めた。今後も、入場者の声に耳を傾け、顧客満足度の維持・向上と入場者数等の増加につなげていく。

人材養成事業

地域の文化レベルの維持と底上げに向け、その担い手となる若年層の確保を図ることを目標として以下の指標を設定

成果指標	H29	H30	H31	R2	R3	R4	目標値
育成団体（※）の団員数	120人	111人	106人	108人	100人	103人	130人

※石川県ジュニアオーケストラ、いしかわ子ども邦楽アンサンブル、エンジェルコーラス

（エンジェルコーラスはコロナで一時活動休止中。現在の登録者数でカウント）

令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、引き続き、当館担い手育成事業の1つである合唱団体の活動を休止していたため、新入団は0名であった。

令和4年度の邦楽・洋楽のジュニア（若手）団員の活動では、引き続き、コロナ感染対策を行いながらも、令和3年度よりも練習や発表、公演出演などの活動を行うことができた。なお、令和5年度は、合唱団体の活動も再開することとしており、コロナ禍前の姿をほぼ取り戻せると考える。

今後も自主事業公演への参加機会や、発表の機会などを確保することで、参加者の意欲向上を図るとともに、積極的に周知にも取り組むなど、参加者数の維持・拡大に努めていく。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響を引き続き受けたものの、事業期間による支障は、それほど生じず事業を実施することができた。

唯一、中止とした事業の「カレッジコンサート」については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、大学側が学生のサークル活動を制限していたことから、十分な練習時間を確保することが困難であると判断したため、やむなく中止とした。

各公演のチケット販売計画や広報計画については、コロナ禍以前は、約3か月前からとしていたが、コロナによる公演等の中止等の不測の事態の影響を軽微にするため、令和4年度も、約2か月前からの販売と期間を短縮せざるを得なかった。

そのため、広報にも遅れが生じたが、従来からのチラシの配布、DMの送付やSNSでの発信に加え、金沢駅前でのPRや、近隣企業へのチラシ等のポスティング、各種業界団体の会合等に出向いてPRするなど、広報期間の不足を補う活動を強化した。

令和5年度からは、アフターコロナのもと、コロナ禍前の形に徐々に戻していき、早めの販売・広報に努め、集客等に繋げていくこととしている。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

公演事業は、概ね予定どおり事業を遂行できたことから、事業費は当初予定から大きく乖離することなく執行できたため、適切であったと考える。

人材養成事業は、当初予定していた「カレッジコンサート」の事業の中止により、事業費に大きく乖離が生じたが、それ以外の事業は、概ね当初の予定どおり事業を執行できたことから、事業費は予定と大きく乖離は生じず、適切であったと考える。

令和5年度からは、アフターコロナのもと、集客にも力を入れ、収支バランスを図りながら、目標（ビジョン）達成に向けて着実に取組を推進していく。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

当館における地域の文化拠点としての機能（資源）は後述のとおりであり、当館の事業はこうした特性を最大限に活用する事業を実施できた。また、事業内容において、

- ・レジデント・オーケストラであるオーケストラ・アンサンブル金沢（OEK）を核とする公演
- ・伝統芸能文化を核とする地域の特徴を活かした公演
- ・洋楽と邦楽の融合に取り組む公演
- ・新作初演公演

などにも取り組むことで、内容の充実・工夫に努めている。

【当館における機能（資源）】

① キーパーソン

洋楽監督（池辺晋一郎）・邦楽監督（野村萬斎）に加え、令和4年度から新たに広上淳一氏をOEKのアーティストリーダーに迎え、芸術活動に方向性と系統性・持続性を持たせ、芸術内容を深化させることができた。

② 専属団体

専属団体であるオーケストラ・アンサンブル金沢（OEK）を有することで、オーケストラを活用した事業を柔軟に企画展開することができる。さらに、関連する団体（ジュニアオーケストラ、いしかわ子ども邦楽アンサンブル、合唱団 等）を通し、地域と有機的なネットワークを形成し、会館の支援団体としての機能を持たせることができる。

③ 建物設備等

- ・当館はコンサートホール、邦楽ホール、交流ホールと3種のホールを併せ持ち、それぞれのホールの特性に合わせた事業を展開
- ・コンサートホールの形状は、伝統的に響きが良いとされるシューボックス型を採用。優れた音響特性と臨場感を生み出している。
ホール正面にはドイツ製（カールシュツェ社）のパイプオルガンを備えており、コンサートのみならず学会等のオープニングなど多様な場面で使用している。
- ・邦楽ホールは歌舞伎や文楽の公演ができる邦楽専用ホール。また、演奏用に壁、天井の移動式音響反射板も配備しているため、室内楽やオーケストラ公演も可能。
- ・交流ホールは段床（観客席250席）迫りや舞台迫り、迫りフェンス、大型映像装置等を備え、演奏会、講演会、パーティー、展示会、舞踊競技等、様々な催しに対応できる多目的スペース。3ホールの中で稼働率は最も高く、県民の文化交流の場となっている。
- ・コンサートホールと邦楽ホールは、背中合わせに配置されており、公演の内容により楽屋やホールを機能的に使用できる。
- ・当館敷地が金沢駅兼六園口（東口）に面していることから、駅東広場とつながる1階と地階には多目的な利用が可能な交流ホールを設けているほか、コンサートホール側の2階（来場者ロビー）には、金沢駅と一体となった景観が望めるカフェスペースを設置するなど、県民の交流や観光客の憩いの場として、賑わいの創出を図っている。また、音楽堂の周辺にはホテルなどの宿泊施設も多く、利便性の高い立地条件となっており、海外や県外からの利用者も多い施設となっている。
- ・当館の舞台技術スタッフ（業者）は、当館の特性および舞台を熟知する専門家として、計画的な機材の点検、補修、更新を実施し、会館の機能向上に大いに資する存在である。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

『本物の音楽に直接触れたい』、『O E Kを聴きに行きたい』、『パイプオルガンのあるホールの特徴を活かした公演をしてほしい』、『一流の実演家と共演して、共演したい』、『大都市圏に行かなくても、一流の公演を鑑賞したい』といった地域のニーズに対し、当館は下記目標を設定し、地域の文化拠点としての機能・資源（前述）を活用・投入した事業を推進することで応えている。

【トップレベルの文化芸術の振興】

①国際的水準のクラシック音楽の提供 → **公演事業1**

- 世界的に活躍する若手実力派指揮者がプロデュースする、合唱と O E K との共演する公演を実施
- 国内外で広く実力が認められているオルガニストを招き、音楽堂の貴重な財産であるパイプオルガンを積極的に活用して魅力を最大限アピール

②異なる文化の融合・交流等による新たな文化の創造 → **公演事業2**

- 県の音楽文化振興の中心的役割を担う音楽堂として、引き続き、洋楽文化と邦楽文化の融合による新たな文化の創造を推進
- 県内外の観客・出演者が新たな文化と出会う場を創出し、県の文化の裾野拡大を図るとともに誘客の増加を推し進める。

③質の高い伝統芸能の鑑賞機会の充実 → **公演事業3**

- 邦楽専用のホールを活用し、邦楽監督の監修のもと、一流の演者による最高級の伝統芸能を鑑賞する機会を提供

【地域文化の振興】

①将来の文化の担い手の育成 → **人材養成事業**

- 洋楽、邦楽の振興を将来的に担う若者（小学生～高校生）等の育成を図るための事業を展開
- 将来を嘱望される地元（北陸）ゆかりの若い音楽家の発掘と支援を実施

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

当館組織の構築、強化、維持について、当館中期経営目標（実施期間 平成30年度～令和4年度）を

①入場者数を5年間で8%増加させる。

②利用者（貸館）アンケートによる満足度は引き続き95%以上を維持する。

と設定し、目標達成に向けた適切な運営を行うため、設置者と人事・経営戦略やネットワーク、事業内容など組織活動に関する情報、さらには下記の現状と課題の共有を図りつつ、PDCAサイクルを連結させ、持続的に改善・発展に努めてきた。①については、新型コロナウイルス感染症による休館や公演中止等の影響により達成できなかったものの、②については、満足度はほぼ100%となり、目標を達成した。令和5年度からは、

①入場者数を5年間で5%増加させる。

②利用者（貸館）アンケートによる満足度は引き続き95%以上を維持する。

との新たな中期経営目標（実施期間 令和5年度～令和9年度）を設定し、達成に向けて、引き続き努めていくこととしている。

【人事】

専属団体構成員の転換期（退職期）を迎え、新規の演奏家の獲得を随時実施している。

運営事務局構成員も同時に世代交代を進め、経験を積んだプロパー職員が若手職員へノウハウを継承している。引き続き、地域住民の理解と支援を得られる施設としての在り方を追求していく。

【劇場・音楽堂等間のネットワーク】

地域や国内の劇場・音楽堂との共同制作事業、共同公演事業を実施。また、全公文の総会や東海北陸支部、県公文協の研修会などに参加するほか、劇音協等との情報交換を定期的に行っている。

【教育機関とのネットワーク】

大学との提携の一環として、例年、昭和音大からのインターンシップ受け入れを実施している。

これまでOEKによる幼稚園、保育園、小中学校、特別支援学校での公演を実施してきた。更に、令和2年度から3年計画で、金沢市内の全中学校で公演する事業を実施中。

【ボランティア】

地域の音楽愛好家によるボランティア団体が当館の事業運営を幅広くサポート。

春の音楽祭では大勢の学生や地域住民をボランティアとして積極的に活用。

ひいては当館のサポーター（顧客）となることも見据えて受け入れを推進している。

【財政支援者】

財源は石川県からの補助金に加え、公演収入、事業参加者からの負担金、民間の助成金の獲得など財源の多様化に努めている。また、財政支援者であるOEKの定期会員数については、新型コロナウイルス感染症の影響により減少傾向であったが、令和4年度からは会期中からの入会を可能とするなど入会し易い制度を導入するとともに、入会の働き掛けを強化したところ、前年度から約10%の増加となった。一方、賛助会員数は、若干の減少となった。なお、コロナ禍前（令和元年度）から、それぞれ、約20%、約10%の減少となっており、今後は、アフターコロナのもと、会員数の回復・増加に向けて更なる事業内容の充実や施設の利用促進に努める。

【施設運営】

貸館利用促進のため、ホームページ、フェイスブック、ツイッターの活用、マスコミへの協力など積極的な情報発信を行っている。令和4年度には、より閲覧し易くするため、ホームページの一部改良を施したところであるが、令和5年度には大きなりリニューアルを予定しており、更なる充実を図ることとしている。